

事業コード	H16-農-終-1			区分	(国庫補助)・県単独
事業名	農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業			部局名	農林水産部
事業種別	農道整備			課室班名	農山村振興課 (tel)1859
路線名等	象潟地区			担当課長名	川原幸徳
箇所名	象潟町西中野沢			担当者名	岩井寛明
総合計画との関連	政策コード	U	政策名	潤いとやすらぎを提供する農山漁村空間の創造	
	施策コード	4	施策名	快適で生き生きした農山漁村づくり	
	目標コード	1	施策目標名	その他施策関連事業	

1. 事業の概要

事業期間	H4 ~ H14 (11年)	総事業費	22億円	国庫補助率	1/2																																																
事業規模	延長 L = 3,917m 幅員 5.5(7.0)m																																																				
事業の立案に至る背景	<p>本地域は、鳥海山麓に広がる農業地帯で、米を中心に野菜、畜産等の複合経営を推進している。近年は施設栽培のミニトマトやホウレン草、花卉が伸びている。しかし、地区の現状は奈曽川渓谷により南北に分断されており、既存道路は国道7号へ櫛状に東西に連絡する配置で、南北に接続する基幹道路がないため、農産物等輸送や奈曽川を挟んだ出入り耕作は集落内の屈曲、狭小が多い道路の利用や、国道を迂回せざるを得ないなど、農業施設の全町的な有効利用を図る上でも大きな支障となっていた。</p> <p>このため、地区を南北に結ぶ幹線ルートを確認し、農産物等の流通の合理化を図り、併せて一般交通の利便性向上を図る必要があった。</p>																																																				
事業目的	<p>農産物等の流通合理化 農村地域の生活環境の改善</p>																																																				
事業費内訳	<p style="text-align: right;">(単位:千円)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th></th> <th>当初計画</th> <th>最終</th> <th colspan="2"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業費</td> <td>2,057,000</td> <td>2,177,974</td> <td rowspan="4" style="vertical-align: middle;">最終コスト比較 C / C = (1.06)</td> <td rowspan="4"></td> </tr> <tr> <td>経費内訳</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>  工事費</td> <td>1,643,813</td> <td>1,872,861</td> </tr> <tr> <td>  用補費</td> <td>139,478</td> <td>144,869</td> </tr> <tr> <td>  その他</td> <td>273,709</td> <td>160,244</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>財源内訳</td> <td></td> <td></td> <td rowspan="4" style="vertical-align: middle;">最終費用便益比 B / C = (1.02)</td> <td rowspan="4"></td> </tr> <tr> <td>  国庫補助</td> <td>1,028,500</td> <td>1,088,987</td> </tr> <tr> <td>  県債</td> <td>771,000</td> <td>816,000</td> </tr> <tr> <td>  その他</td> <td>171,416</td> <td>181,497</td> </tr> <tr> <td>  一般財源</td> <td>86,084</td> <td>91,490</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>事業内容</td> <td>新設工 改良工 橋梁工1箇所</td> <td>新設工 改良工 橋梁工1箇所</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						当初計画	最終			事業費	2,057,000	2,177,974	最終コスト比較 C / C = (1.06)		経費内訳			工事費	1,643,813	1,872,861	用補費	139,478	144,869	その他	273,709	160,244			財源内訳			最終費用便益比 B / C = (1.02)		国庫補助	1,028,500	1,088,987	県債	771,000	816,000	その他	171,416	181,497	一般財源	86,084	91,490			事業内容	新設工 改良工 橋梁工1箇所	新設工 改良工 橋梁工1箇所		
	当初計画	最終																																																			
事業費	2,057,000	2,177,974	最終コスト比較 C / C = (1.06)																																																		
経費内訳																																																					
工事費	1,643,813	1,872,861																																																			
用補費	139,478	144,869																																																			
その他	273,709	160,244																																																			
財源内訳			最終費用便益比 B / C = (1.02)																																																		
国庫補助	1,028,500	1,088,987																																																			
県債	771,000	816,000																																																			
その他	171,416	181,497																																																			
一般財源	86,084	91,490																																																			
事業内容	新設工 改良工 橋梁工1箇所	新設工 改良工 橋梁工1箇所																																																			
事業終了後の問題点	なし																																																				
住民満足度等の状況(事業終了後)	<p>満足度を把握した対象 受益者 <u>一般県民</u> (時期: 16年8月)</p> <p>満足度把握の方法 <u>アンケート調査</u> 各種委員会及び審議会 ヒアリング インターネット )</p> <p>その他の方法 (具体的に )</p> <p>満足度の状況</p> <p>住民へのアンケート調査から、農家では田畑、農業施設への移動時間の短縮や大型農業機械の搬入が容易になったこと等を7割の人が評価している。また、住民の半数以上が週3日以上本路線を利用しており、7割以上の人が災害、緊急時の迂回路、公共施設へのアクセスの利便性向上を評価している。</p>																																																				
上位計画での位置付け	総合計画における施策「快適で生き生きした農山漁村づくり」を支援する事業																																																				
関連プロジェクト等	なし																																																				

前回評価結果等	選定または継続 指摘事項	改善	見直し	保留または中止
	指摘事項への対応			
事業効果把握の手法及び効果	指標名	県全体における農道整備	データ等の出典	「あきた21総合計画」前期計画(H12~H14)
	指標の種類	成果指標 <u>業績指標</u>	把握の時期	15年3月
	指標式	農道整備延長/農道整備計画延長		
	目標値 a	18.5 km		
	実績値 b	21.6 km		
	達成率 b/a	117%		
	指標を設定することができなかった場合の効果の把握方法 指標を設定することができなかった理由			
	具体的な把握方法と成果(見込まれる効果) データの出典含む			
	地域住民を対象としたアンケート調査により、事業の満足度等を把握する。			

## 2. 所管課の自己評価

観 点	評価の内容(特記事項)	評価結果
有効性	住民満足度の状況 <u>A</u> B C	<u>A</u> B C
	住民へのアンケート調査から、農家では農地や農業施設への移動時間の短縮や大型農業機械の搬入が容易になったこと等を7割の人が評価している。また、住民の半数以上が週3日以上本路線を利用しており、7割以上の人が災害、緊急時の迂回路、公共施設へのアクセスの利便性向上を評価している。	
	事業の効果 <u>A</u> 達成率100%以上 B 達成率80%以上100%未満 C 達成率80%未満	
	「あきた21総合計画」の前期実施計画の目標を達成している。	
効率性	事業の経済性の妥当性 <u>A</u> B C	<u>A</u> B C
	B/C 1.02 > 1.0	
	コスト縮減の状況 A 縮減率20%以上 B 縮減率20%未満 C 縮減なし	
総合評価	<u>A</u> (妥当性が高い) B (概ね妥当である) C (妥当性が低い)	
	農地、農業用施設や公共施設等への移動時間短縮、災害時の迂回路確保など地域住民の満足度は高いことから妥当性は高い。	

## 3. 評価結果の同種事業への反映状況等(対応方針)

農道網の基幹的位置付けであり、高生産性農業の実現と農村地域の生活改善に寄与することから、引き続き事業を推進する必要がある。

## 4. 公共事業評価専門委員会意見

県の評価および対応方針を可とする。